

令和2年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和3年3月31日

校番	202 127	学校名	広島叡智学園中学校・高等学校	校長氏名	福嶋 一彦	全・定・通	本・分
----	------------	-----	----------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標、評価指標の関係性は、おおむね合理的に設定されているが、経営目標1の達成目標の2点目の「充実させることができる」という表現はあいまいであり、経営目標2の達成目標の3点目の「望ましい食習慣を身につけている」と具体的な指標が、合致していないため、見直してもよい。また、評価指標の2点目の「年間の取組に対するルーブリックを用いた自己評価」の規準が判然としないため、ルーブリックの概要や規準を例示するとよい。 ・適切な評価項目をあげられている。DP の開始時に何を目標、評価指標と設定するかが重要になる。 ・生徒に広島叡智学園で学ぶ意義を常に意識させながら、学校生活を送るための目標設定・評価指標ができています。 ・学校経営計画に基づき、本校のミッション・ビジョンの達成を目指すために、適切に達成目標や評価指標、行動計画が設定されている。 ・ルーブリックを用いて様々な活動を行っている点や、「自分プレゼン」を実施し始めた点、また、教科を越えた学際的な学びを実施している点など、前進が見受けられる。
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指標に基づいて、適切に評価されている。 ・達成率が90%を超えているものに対して「B」判定となっており、課題があるためかとも思うが「A」で良いのではないかと思う。全体的によく目標に向けて行動されており評価できる。 ・評価において、一部辛過ぎるのではないかとと思われる部分もあるが概ね妥当な評価である。 ・年間の取組に対するルーブリックを用いた自己評価、生徒・教職員アンケート調査、外部検定試験などの活用により適切に評価されている。 ・HM、HS、教職員との連携や、生徒のユニットリーダーと生徒会委員長を中心とした自治的な活動など、学校の教育活動全体と寮生活における仕組みが整ってきている。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションの理解や授業改善に関する研修が適切に機能している。生徒の校外での活動・発表の機会があることは望ましいことである。 ・保護者の理解を深めるために、ニュースの発信が頻繁に行われていることが分かる。コーディネーターから発信されるニュースは、保護者のみならず、学校運営協議会のメンバー等にも配信し、教育課程上の取組や課題を広く共有するとよい。 ・時間外勤務の縮減が一気に進んでいることは、高く評価できる。効果的な対策が取られていることの現れと考える。 ・十分な取組が実施されていると実感している。記載されている取組に関しても十分な結果が出ており、適切なものであると感じる。 ・「自分プレゼン」を行い、生徒の自主性・主体性を促している。保護者に対して、学校の取組を周知し、教育活動への理解を深めることができています。 ・今年度開始した生徒会活動や保護者に対するコーディネーターニュース、ビデオによる情報発信、教職員研修会により、目標達成に向けた具体的取組が適切に行われている。 ・一日24時間、生徒と関わるという環境下にある教職員のワーク・ライフバランスを図るという困難な課題に対し、完ぺきとはいかないまでも、努力されている様子が伺える。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に分析が行われている。 ・分析の記述の仕方が、項目ごとに少しずつ異なっている。エビデンスの示し方、柱の立て方などを統一感があるとよい。 ・寮生活において自治的な活動が強化されていることは望ましいことである。 ・客観的な視点で分析されており、十分評価できる。若干厳しめの分析になっていることが気になるが、適切であると感じる。 ・一部評価が厳しめ付けられている部分はあるが、アンケート結果を適切に分析し、的確に次への指針とされる良いサイクルができあがっている。 ・経営目標1と経営目標3は、適切に分析されている。経営目標の2「寮生活」に関する分析は、客観的な基準があるとよい。 ・教科を越えた相互授業観察について、国際バカロレア機構からも高い評価を得ており、自己評価と外部評価が一致している。また、アンケート調査からも詳細な分析がなされており、今後の課題や改善の必要性の有無が適切に判断されている。

<p>今後の改善方策の適切さ</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語力の強化に向けて、さらに研究を深めてほしい。学年が進むほど、到達度に関きが出てくる。諦めや拒否感を示す生徒が出てこないよう支援の方法を検討してほしい。 ・高校段階から生徒の多様化・国際化進んだとき、寮の衣食住や自治的活動にどのような影響が出るかを継続的に検討してほしい。 ・働き方改革のさらなる進展のために、教育公務員におけるリモートワークのあり方を先進的に調査・研究してほしい。遅出・早帰など、子育て世代の教職員が、勤務時間の一部を自宅で勤務する(会議や教材研究等)スキームを実験的に構築してほしい。 ・現実的にできそうな改善方策を提案されており評価できる。 ・子供たちや保護者のことを考えた改善方策になっている点が評価できる。 ・いずれも的確な改善方策が打ち出されており、適切である。 ・今後の課題や改善が必要な項目について、具体的な方策が明記されており適切に改善方策が実施されている。 ・適切な対処が考えられている。「自分プレゼン」の最終目標は、卒業時において自分で自分の将来を選択していくという力を付けさせることなので、それを目標に取り組んでほしい。
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価シートは、論理的に筋が通っており、エビデンスも明瞭である。IB校らしい評価の哲学が感じられる。長期的な展望に立って、学校のビジョンを追究してほしい。 ・学校運営がより安定化していく一方で、学年進行で学校の規模は拡大し、教職員の数が増え、生徒が国際化し、ステークホルダーが増えていく。そういう中で、これまで以上に風通しのよい学校文化を持続的に構築していくために何をなすべきか(理念として尊重すべきこと、新たに取り入れるべきこと、大胆にやめること)を、教職員と生徒でしっかり検討してほしい。 ・学校からSNSを効果的に活用して、生活や学びを社会に発信できている。今後、SNSでつながっていない方々にも伝える方法を検討してほしい。 ・今年度の実施状況や今後の改善方法についても適切に検討されているのでよい。 ・コロナ対策のために制約がある中で、1年間よくやっていただいた。 ・未曾有の危機的状況の中、着実にIB校としてのご実績を積み、特に授業実践やその改善の取組はすばらしい。今後留学生も含む形で生徒数が増え、DPを開始されるに当たり、様々な問題も生じることが予想されるが、世界に誇るIBモデル校として今後ますますの発展を期待する。 ・堅実な学校運営ができています。 ・コロナ禍で活動が難しい中、生徒会活動や寮での係活動が、成果として教育活動や寮生活の充実につながっている。今後も、生徒の心に寄り添い、厳しくも温かい指導を期待する。 ・コロナ禍の中、ここまでやってくることは大変であったと思う。敬意を表したい。